

「第19回因州和紙あかり展」入賞作品選考審査結果

日時 令和5年1月6日（金）

午前10時～

場所 鳥取市あおや和紙工房

審査員長 石谷 孝二 氏（鳥取大学名誉教授）

審査員 山ノ内芳彦 氏（木工・灯り作家）

審査員 遠藤由美子 氏（公立鳥取環境大学副学長）

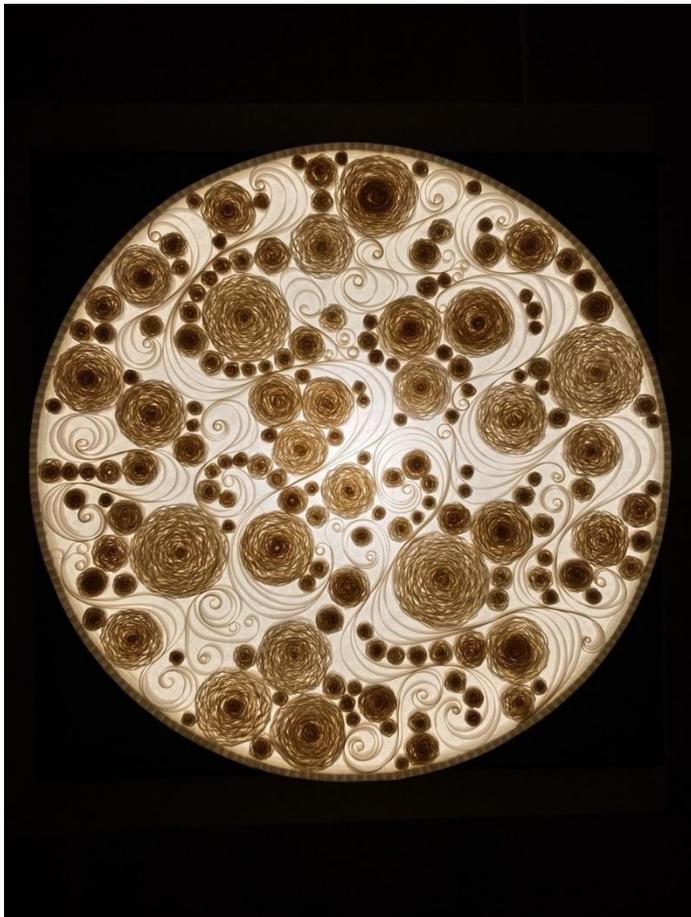
■総 評

一般部門には県内外より 51 点、ジュニア部門が 4 点の計 55 点の出品があった。本年は例年にも増して、バリエーション豊富な作品が集まった。大賞の作品は、シンプルだが緻密で丁寧な作りが評価された。準大賞・佳作の作品には、和紙それぞれの特色を活かした魅力ある作品が選出された。

和紙や紙の持つ可能性を広げる作品や、日々の生活の中の糧となるような創意ある意欲作を今後も期待したい。

ジュニア部門は今回 4 点のみの応募であった。協議の結果、今回は全作品入賞とした。

■一般部門 講評



大 賞 【花手水】

安井 小百合

（岐阜県多治見市）

シンプルではあるが、緻密で丁寧な作りでまとまりがあって、完成度が高い。大きな作品への挑戦や空間的な展開への期待が膨らむ。



準大賞 【藍夜の川】

鳥取県立智頭農林高等学校

生活デザインコース①

(鳥取県八頭町)

和紙の加工方法として新しく、新鮮な感じである。色合いのバランスが良く、光との兼ね合いも良い。柔らかく仕上げで展示効果を上げる作品も見たい。



佳作 【明星（あかぼし）】

向井 宏志（岡山県岡山市）

大きな作品であるが抜け感があり、和紙の軽やかな感じが良い。枠組みに少し既製品感があり工夫の余地があると思われる。



佳作 【鼓動】

竹歳 真帆（東京都千代田区）

小さい中に存在感がある作品である。紙布の面と粗い面の造形的なバランスが良く、和紙の素材の魅力を引き出している。

■あおや和紙工房賞（鳥取県内の応募作品対象）



入賞 【難を転じて福となす】

山下 恵梨（鳥取県鳥取市）

一見、和紙に描かれた「絵」かと思まごうが、実に巧緻に作られたちぎり絵である。

球状に作った上から細かな作業で作上げられた秀逸な作品である。絵柄もタイトルをもじり「南天」と、季節感もあり縁起物としても気が利いている。



入賞 【輝くはばたき4人のあかり】

鳥取県立鳥取盲学校

合同作業学習グループ（鳥取県鳥取市）

鳥取県立鳥取盲学校の四人の高校生たちが協力し合って作り上げた作品。

「あかり」と和紙への思いを込めて、手ざわり肌ざわりを頼りに取り組んで頂いた。四人の輝くはばたきを期待します。